

なは地域貢献便り 2月

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

第5回・6回那覇市社会福祉法人等施設連絡会報告

去る、12月16日(木)17日(金)に開催された標記連絡会では、これまでにちゅいしいじい事業の進捗報告、CSW から買い物支援活動の報告、食料支援活動の報告の後、本日のテーマとなる「災害時の要支援者の個別避難計画の作成について」活発な意見交換が行われたので、その概要をご報告いたします。



避難行動要支援者の避難支援計画について

災害発生時に支援を必要とする方々へ地域の自治会や防災組織、民生委員、関係機関、隣近所そしてわたしたち福祉施設が、地域と連携して助け合う仕組みづくりを確認する

動画による問題提議
ハートネットテレビ

地域で暮らすということ西日本豪雨 被災した障がい者 「結局、福祉だけが彼女たちを支えていた。」

2016年にNHKで放映された、娘の愛さんと暮らす軽い知的障害のある未婚の母三宅遥さんが、保育園の迎えの様子から動画が始まる。

遥さんは、子育てに様々な福祉サービスを受けて充実した日々を送っていた。作業所の仕事を続けて、特にヘルパーさんから家事援助と子育ての支援を受け、保健師さんや支援センター、作業所の職員さんから様々な生活相談にのってもらっていました。

7月6日 午後7時 真備町に大雨による避難勧告が発令され、支援センター永田さんから小学校への避難を呼びかけたが、遥さんは小学校が分からないという。警察が駆けつけることは難しい。これまでの福祉サービス関係者も駆けつけることは難しかった。7月7日

午前1時 避難指示発令 隣町に住む支援センターの永田さんは助けに行けなかった。永田さんは、隣近所の助けがあることを願っていたが、遥さんは帰らぬ人となった。

ヘルパーさんのメールには警察が助けに来るのを待つ。近所付き合いがないから…と返信があった。支援センター永田さんは、福祉サービス中心になってしまって近所付き合いの必要性を伝えていなかった。と振り返った。

近所付き合いはあまりなく、母が障害者ということも多分知られていない。被災時は誰もが自分と家族の身を守るだけで精一杯だったろう。でも、すぐに声が届く場所に障害者の母子がいると認識していたら…声をかけてくれる人がいたかもしれない。



個別避難計画 とは

避難に支援が必要な一人ひとりに対して災害時の避難支援の注意点をまとめた計画のことをいいます。



避難行動要支援者 とは

災害時に1人で避難することが困難なため、避難行動に支援を必要とする高齢者や障がい者(児)の方をいいます。那覇市では在宅の方で自力避難が困難な方を避難行動要支援者とし、名簿に登録しています。



○個別避難支援計画の資料(パンフレット、ご近所のご協力避難行動要支援者を守りましょう及び避難行動要支援者名簿の提供に関する同意書兼個別支援計画の様式、記入例等)については、webサイト「那覇市災害時避難行動要支援者制度」を検索してください。

葦の会互助会の 素敵なクリスマスプレゼント

社会医療法人葦の会(理事長 田頭真一)オリブ山病院互助会(秋山雅基会長)では、互助会費の一部を毎年、地域貢献活動に充てています。

今年は、首里地域で活動されておられる子ども食堂、みんなの居場所なかまんち、子ども居場所アップ、沖縄市のおきなわ地域・子どもサポートに寄附されました。互助会の松岡太郎顧問は、「未来を担う子供たちのために有効に使っていただきたい。」と願いを託した。なかまんち代表の知念孝江さんは「運営資金として大切に使用させていただきます。多くの子どもたちにその思いを届けたいです。」と感謝した。



社会福祉施設等から多くの寄贈を頂きました。

昨年は18団体から沢山の食料の寄贈を頂き、様々な事情を抱えておられる生活困窮者世帯や、コロナによる自宅療養者宅へも届けられました。大変感謝申し上げます。那覇市内の社会福祉施設の皆様におかれましては、引き続き「ちゅいネットなは」の食料提供(フードドライブ運動)について、ご支援をお願いいたします。



ポプラ福祉会



株式会社はなたけ



郵住協福祉会あじゃ保育園



医療法人正清会久田病院

2021年(令和3年3月1日~12月28日現在) 合計 3,864 点

- | | | | |
|-------------------|----------|-------------------------|----------|
| 1 就労支援サービス株式会社 | 代表 大畑昭康 | 10 そてつの会 | 代表 仲真良勝 |
| 2 小規模多機能ホーム安岡 | 代表 長堂和男 | 11 乙羽会グリーンハウス国場 | 代表 我喜屋宗重 |
| 3 就労支援センターふくぎ | 代表 国吉正人 | 12 うるま福祉会 玉の子保育園 | 代表 高良桂子 |
| 4 アルプスセンター | 代表 岡田拓也 | 13 正清会 久田病院 | 代表 与儀英明 |
| 5 障害者就労支援センターさわやか | 代表 高嶺豊 | 14 南部療育医療センター(旧沖縄整肢療護園) | 代表 當山潤 |
| 6 沖縄中央福祉会彩風の杜なは | 代表 安里富士子 | 15 ニライカナイ hoccoripon | 代表 豊村良春 |
| 7 ゆうなの会 | 代表 神谷幸枝 | 16 ポプラ福祉会ポプラ子ども園 | 代表 崎濱盛喜 |
| 8 からし種の会 アトリエ種子 | 代表 棚原信子 | 17 株式会社はなたけ | 代表 竹内一郎 |
| 9 相談支援センターテイクオフ | 代表 佐藤誠 | 18 郵住協福祉会あじゃ保育園 | 代表 三木元子 |

フードドライブ(食料提供)運動のご案内

募集期間 令和3年(2021年)3月1日(月)~随時受付

募集内容 □米(2019年度、2020年度、2021年度米) □缶詰 □レトルト食品 □カップ麺 □防災品 □お菓子
※全て未開封、賞味期限3か月以上あるもの ※特にお米の支援ニーズが多くなっています

受渡場所 那覇市社会福祉協議会(那覇市総合福祉センター)tel.098-857-7766 担当:山城章

事前に下記の内容でメールまたはFAXをお願いします

那覇市社会福祉協議会へ ○月○日 時間帯(午前・午後/○時)頃に届けます。

fax 098-857-6052 mail 1101tyui@nahasyakyo.org

届け先/那覇市社会福祉協議会(那覇市総合福祉センター) 住所/那覇市金城 3-5-4



住んでいる地域のマップを作成し、避難計画の確認

日時 令和3年11月12日(金) 場所 元ペリー内科病院 ※駐車場協力 ペリー保育園

内容 個別避難計画の説明&マップ作成

参加者 要支援者、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、福祉用具事業所
地域包括支援センター、民生委員児童委員、地域住民、那覇市、那覇市協



マップから分かったこと・見えてきた課題

- ① 指定緊急避難場所、指定避難場所は数か所ある
- ② 避難場所によって状況が全く違う
- ③ 一番近い場所はモノレールが通っている大きな道を渡る
- ④ 避難場所には障がい者トイレがあるのか
- ⑤ 公開されている福祉避難所はどこにあるのか
- ⑥ 緊急連絡先になっている親族の場所
- ⑦ 普段かかわっている関係機関の場所
- ⑧ そもそも自宅は安全か?
- ⑨ 電動車いすの充電ができる場所…など

地域福祉懇談会から出てきた意見

- ① 平常時の生活は充実しているが災害時は想定されていなかった
- ② 日々の生活の中で地域に目を向ける事に気が付く
- ③ 地域の防災訓練があれば参加してみたい
- ④ 困っている人はもっとわがまを発信してもいいんだ
- ⑤ 自分の事を知っている人が地域に増える事は安心感が得られる
- ⑥ 地域を巻き込んだ活動に繋がると良い
- ⑦ 障がいを抱えている人は我慢する事が当たり前になっている。計画を立てる事により障がいに対する理解や地域づくりが芽生えると素晴らしい



指定緊急避難場所
指定避難場所
福祉避難所
土砂災害危険地域等
支援者・事業所

第5回 那覇市社会福祉法人等 施設連絡会小禄・真和志意見交換



社会福祉法人ペリー福祉会
ペリー保育園
園長 賀数博氏

- ・避難後は、子どものアレルギーもいるので対応には留意する必要がある。
- ・食糧を備蓄して対応できる体制はしているが自治会とも連携したい。
- ・80歳以上の高齢世帯が80世帯いる。どこに避難させるか自治会の課題



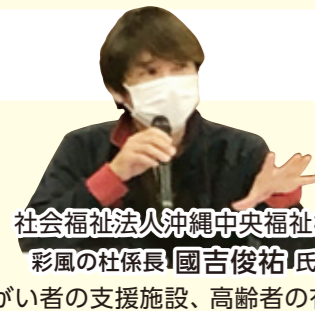
社会福祉法人ミライカナイ
のびつと施設長 玉城恒氏 川畑晴奈氏

- ・個別避難計画の書類が届いたが何の書類が分からないと利用者の保護者から連絡があった。避難支援者の定義が分からず、那覇市へ問い合わせを代理で対応した。那覇市の話によると返送率3割と回答があった。戸惑いがある利用者もいる。



日本赤十字社沖縄県支部
事業推進課長 池原栄作氏

- ・避難所が立ち上がる前に備えることやるべきことはたくさんある。地域のコミュニティー向上が大切。
- ・目の届きにくいところに配慮した支援が必要とされている。



社会福祉法人沖縄中央福祉機会
彩風の社係長 國吉俊祐氏

- ・障がい者の支援施設、高齢者の有料ホームで複合型施設。那覇市から要請を受けて福祉避難所になっている。
- ・台風が何日も続いた時も3日くらい受け入れを対応したが、情報が何もないので職員が急いでアセスメントした。個別避難計画はあった方が良かった。



社会福祉法人垣花福祉会
すがやま保育園
園長 新里順子氏

- ・保育園の散歩の時に、地域の方へムーチーを配付して交流はしている3年前から近隣の方へ今日は避難訓練がありますと伝えていいる。一緒に参加しましょうとお声かけしている。



社会福祉法人沖縄にじの会
施設長 玉城好史氏 事務長 山城楓氏

- ・福祉避難所の指定となっている。地域が知っているかと言われると来ていない。地域に発信が必要と感じた。
- ・要支援者の個別避難支援計画については、必要な方の落とし込みは出来ていない。デイサービスもあるので必要かを感じる。



社会福祉法人偕生会
石嶺児童園園長 上原裕氏

- ・大きなグラウンドがあり、地域の避難所となるかと感じた。自衛隊と炊き出し訓練を行った。月1回。地域の方を災害時にどのように受け入れるかの想定が必要と感じた。



社会福祉法人そてつの会
施設長 盛島光司氏
課長 本村寿賀子氏

- ・古波蔵地域は水没を想定した訓練を検討している。
- ・自治会、施設、学校と協働で訓練の話を持ち掛けたが断られた。津波だと職員40名で利用者120名を避難させられるか? =>保護者会でも話してみる。



社会福祉法人からし種の会
施設長 棚原和歌子氏(左)
主任 渡久地景子氏

- ・利用者の家庭における災害時の避難については想定していなかった。
- ・利用者それぞれの家の近くの避難場所を伝える事から始められると感じた。
- ・事業所としてパン販売を通して地域と繋がりがある。それをどのように活かしていけるか考えたい。



社会医療法人葦の会
オリヤマ病院
主任 比嘉満氏

- ・普段の地域との繋がりの視点で買物支援の部分で、法人として取り組んでいけないかを感じている。どこまでできるのかが今後課題となっている。



社会福祉法人ゆうなの会
次長 金城満氏

- ・要避難者名簿について知らなかった為、これを機会に調べた。各管理者に確認。知っている職員と知らない職員もいる。実際に利用者が、近隣住民と繋がっているかまでは把握しておらず、必要と感じる世帯がいくつか挙がった。通所、訪問介護。



一般社団法人いわぬま
理事 儀間光徳氏

- ・子どもたちの安心安全の為に避難訓練は大切だと思う。
- ・避難計画を作成し訓練してパニックを少量に留めたい。
- ・利用者の住んでいる地域の事を知らないといけない。
- ・避難に関して地域との繋がりを持つと安心。



医療法人正清会久田病院
事務長 久田護雄氏 看護部長 大城盛博氏

- ・駐車場が一時避難場所にはなっている。毎日午後6時の管内放送で災害時の避難について広報を習慣化することも一つの周知方法になる。
- ・自立生活をしている重度障害のある友利敏幸さんの個別避難支援計画について作成をサポートしたい。彼とFMラジオの番組を持っているが、その中で、個別避難計画をもっと身近な必要あることとして広報啓発できると思う。

関係機関所見

那覇市福祉政策課
副参事 仲本知美氏
主査 比嘉美樹氏

- ・令和元年度から個別避難計画を郵送しているが返信率が低い。
- ・計画書の記載漏れもある。地域と個別避難をどう結びつけるか課題がある。
- ・個別避難計画を立てるにあたり、過程が大切。意識づけも必要
- ・計画を作成する際に「安心です」と声があった。個別避難計画を立てる際に住民の方へ意識づけしていきたい。

県社協地域福祉部
主任 大城利公氏

- ・災害と社会福祉法人の連携で、自助・公助・互助・共助が大切。命の尊さを1人1人が考えることが大切
- ・災害は発生時だけの支援ではなく、その後も支援は続いていく
- ・福祉施設は、利用者の家族の背景を知っている部分が強み
- ・防災マップ、ハザードマップ作成の時に、命の尊さを1人1人が考えると違った視点になるかと思う。助け合い支え合いを推進する前にそこも大切にしてほしい。

那覇市社協
地域福祉課長 真栄城孝

- ・避難計画作成より、地域で何が出来るのかな?と考えることが大切。
- ・緊急医療キットの活用も個別避難計画を立てる際の一助になる。阪神淡路大震災時、助けられた方は主に近隣住民。自衛隊などの救助は全ての地域での対応は困難。顔の見える関係づくりが大切。モデル地区で銘苅地区が先に取り組んでいるが、各行政区で今、取り組んでいる。周知の方法も課題。
- ・当事者の方の助けて下さいと伝える努力も大切。地域との繋がりを大切にして進めていきたい。

皆様のご意見を通して気づきとなったことと、一緒に取り組んでいただきたいこと。

1. 要支援者のお住まいの避難場所について本人、家族が知っているか今一度ご確認いただければと思います。(災害の状況によっても、異なります)
2. 支援者が確保できているかを今一度ご確認を(時間や災害の状況によっては異なります)
 - ・支援者は家族ですか?・支援者が高齢で避難困難ではないですか?独居の場合にどう支援者を確保すればよいか。難しいことですが、周りでその人のことを考えることから始めてみるのも良いと思います。
3. 当施設において気になる要支援者がいますか?いらっしゃれば、要支援者のケアマネ、相談支援専門員、又は
4. 地域との避難訓練への参加は重要です。地域で避難訓練を申し出て断られた施設もありますが、市も社協も一緒に考えていく課題です。
5. 普段から地域と繋がる活動が、災害時に活かされることを実感しました。(移動支援、居場所支援、サロン活動、年間の地域行事への参加、世代間交流などの参加等、施設と地域との繋がりを普段からどのように行っていくかを、施設内、地域と話し合う機会が図れますように)

専門相談者に避難支援計画について話し合ってみませんか。要支援者へ、意識して伝えること。支援者が心がけることを考えてみてはいかがでしょうか。